

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年3月16日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	<ul style="list-style-type: none"> 例年になく暖冬の影響で生育の進展がかなり早く、2月25日に出穂始めを確認した。 2月に2度の積雪があり穂ばらみ期での低温遭遇となったため、不稔の発生が懸念される。 茎立ち以降の積雪があり、倒伏は1割程度となっており、甚大な被害とはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖冬により、出穂期、成熟期が早まる予想であり、特に適期の出穂期防除に努める。 定期的にはほ場を巡回し、排水溝と明渠をつないで排水対策を継続する。
	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> 3月13日時点での生育モデルによる「二十世紀梨」の満開日は、4月11日と予想されている(昨年の満開日:4月16日、平年の満開日:4月15日)。 せん定作業はほぼ終了している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後の気温推移によって、開花時期が変わるので注意する。 3月20日から発表される「強い霜に関する気象情報」に注意し、霜害対策を準備する。方法としては、散水氷結法、改良燃焼法等があるので、園の状況に合わせて対策を講じる。
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> 発芽期は、平年より3~4日程度早くなっている。(参考)品種ごとの発芽期 富 有: 本年3月13日、平年3月16日 西 条: 本年3月12日、平年3月16日 輝太郎: 本年3月8日、平年3月13日 	<ul style="list-style-type: none"> 展葉が始まると霜害の可能性が高まるので、注意する。 「強い霜に関する鳥取県気象情報」に注意し、霜害対策を準備する。方法としては、散水氷結法、改良燃焼法等があるので、園の状況に合わせて対策を講じる。
ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> 降雪がなく、気温も高めに推移している。 無加温ハウス被覆は前年より5日程度早い。 無加温「巨峰」「ピオーネ」「シャインマスカット」は前年よりも5日程度早い生育となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 霜害、春の突風に注意する。 生育が早いと発芽のばらつきが予想されるので、芽かきで発芽状況を揃える。 	
野菜	すいか	<ul style="list-style-type: none"> 【ハウス栽培】 2月24日から定植が始まり、3月1日から本格的な定植が行われている。順調に生育している。 【トンネル栽培】 3月5日から定植が始まり、順調に生育している。 	<ul style="list-style-type: none"> 気温の変動が大きいので、トンネル、ハウス内が高温になりすぎないように換気管理を適正に行う。
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 3月から出荷が始まっている。暖冬で生育が平年よりも進み肥大しており、出荷量が多くなっている。 気温が高いため小菌核腐敗病の罹病株が例年よりも多く見られ、さび病の発生も多くなっている。 【夏ねぎ】 暖冬で生育が進んでおり、トンネル作型はトンネル除去が例年より5~7日早く、3月12日ごろから始まっている。露地作型も順調に生育しているが、例年よりも生育が進んでいる。 【秋冬ねぎ】 一部で収穫期がずれ込み、出荷されているが概ね終了。肥大が進み2L規格以上の割合が昨年より多くなったため、出荷量は昨年を大きく上回っている。 令和2年度産の育苗は概ね順調に生育中。 	<ul style="list-style-type: none"> 【春ねぎ】 花芽分化が昨年より2~4週間程度早く、抽台が早まる予想である。また、生育が進み棒ネギになりやすいため、遅れないよう収穫する。 気温が高く、春腐れ症、褐色腐敗症などによる品質劣化の恐れがあるため、銅剤による予防散布を徹底する。 【夏ねぎ】 前年を越える生育状況であり、2~3割程度の抽台が懸念される。 トンネル作型は、トンネル除去と同時に小菌核腐敗病、さび病等の防除を徹底する。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 【初夏どり】 3月2日から順次、定植が始まっている。 【秋冬どり】 収穫は9割以上が終了。秀品率は80%以上で推移し、良好。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖冬で害虫の発生時期が早まることと予想されるため、注意して観察し適期防除に努める。
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> 3月上旬の生育調査では、東部地区、中部地区とも平年と比べ地上部、地下部の生育が平年以上に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病、春腐症の防除を徹底する。 乾燥時はかん水を行い、肥大促進を図る。
	トマト(促成)	<ul style="list-style-type: none"> 【大原トマト】 生育が昨年よりも1週間程度早く、4段目が開花し始めている。 灰色かび病が発生し始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も気温が高く推移すれば、例年より10日程度早く、4月上旬から出荷となる見込み。 灰色かび病が蔓延しないよう、予防防除と耕種的防除(花がら及び枯葉の除去)を徹底する。
	アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培が早いほ場では2月上旬から萌芽しており、収穫が2月中下旬から始まっている。昨年より1週間程度、平年より2週間程度早い。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培は、換気など温度管理を徹底する。 アブラムシ、スリップスなど害虫の発生も早いと予想されるため、注意して観察し防除を徹底する。
	にんじん(春どり)	<ul style="list-style-type: none"> 2月末から3月上旬にかけて播種され、不織布でべたがけしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発芽後、4月下旬頃まで不織布べたがけを継続する。
	花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 智頭町で育苗を受託している生産者は、用土によってはほとんど苗にならないものがあり、成苗率は全体で見ても60%程度。2戸で秋の彼岸だし作型に取り組むこととし、すでに播種作業は終了した。 八頭町内でも育苗しているが発芽とその後の生育が非常に悪く、5戸が苗を購入することとした。 鳥取市でも成苗率が低く、育苗を諦めた農家もいる。 【中部地区】 倉吉市では1月6日播種の地床育苗のものが本葉1枚目展開中。F1オーガスタは種子の袋により差がある。発芽率が高いものは1袋分のみで全体的に発芽率が10~30%程度と低く、生育も遅い。その後播種した優雅晩生も発芽率が低く、全体的に苗が不足することは確実。 北栄町では、令和元年度産は2月末で出荷終了した。 令和2年度産は、種子の発芽率が悪く、生育も緩慢と思られるため、ハウス抑制作型の播種は例年より3週間早い、3月14日から始まった。3月16日から2週間の種子冷蔵が開始する。 露地作型(盆出荷)は2戸で育苗中。1戸については成苗率が低く、大幅に育苗枚数が減った。他の1戸は前年度購入の自己保有種子を使用してため、育苗は概ね順調。
リンドウ		<ul style="list-style-type: none"> 【智頭町】 早いところでは2月下旬から萌芽を開始している。標高の高い河津原でも3月上旬には萌芽を開始した。萌芽が昨年より1週間、例年より2週間程度早い。 【三朝町】 標高の低いところ(90m)では、すでに萌芽している。標高の高い山間部(500m)では越冬芽の状態で萌芽は見られていない。 今年はワイヤーメッシュを設置してあるため、シカの被害は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 葉が展開しはじめてからのあらわれの被害、低温障害が心配される(昨年は4月上旬に被害を受けた)。 病害虫の発生も早まると思われるため、定期防除を徹底する。
ストック		<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 船岡地区の2戸が春の彼岸用に栽培しているが、暖冬の影響で生育・開花が早く、彼岸まで待てない状況。ハウスサイド等を開け、低温管理としているが満開状態。 鳥取市の生産者は出荷中。かなり生育が進み、彼岸に残るものがない状況。 【中部地区】 北栄町の出荷は終盤。日量はスタンダード(SD)5000~7000本、スプレー(SP)2000~3000本。3月上旬はコロナウイルスの影響もあり、市場が軟調傾向で平均単価はSD50円、SP75円となったが、中旬には復調し、SD65円、SP110円となっている。 【西部地区】 2月下旬までの収穫の進捗率は約92.0%(221,930本/241,296本)となっている。出荷はほぼ終わりに近く、2月下旬の日量は約1,640本/日と昨年の約半分となっている。 収穫の終わったほ場では、土壌消毒など後作の準備が始まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【大山地区】 必要に応じて追肥を行う。 【西部地区】 平年より収穫時期が早まる可能性あり。
畜産	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> 【大山地区】 積雪がほとんどなく、生育は順調。ほ場によっては草丈が20cm程度。 一部ほ場で色ムラがあるが、天候が安定しないため追肥ができていない。 【西部地区】 生育は平年より良好。一部ほ場で青刈り収穫を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 【大山地区】 必要に応じて追肥を行う。 【西部地区】 平年より収穫時期が早まる可能性あり。
その他	農作業安全	<ul style="list-style-type: none"> 3月12日広島地方気象台発表の中国地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は、平年より高い見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 春先は身体が暑さに慣れていないため、農作業中の熱中症には注意する。 体調が悪い時には、農作業を行わないようにする。 30分ごとに休憩をとりコップ1杯の水分を補給する。 農作業の前後にも水分の補給をする。 特に農業用ハウス内での作業には注意が必要。